



3人のアメリカ人

最近読んだ本を、3冊紹介してみたい。『東京アンダーワールド』（ロバート・ホワイトニング著、角川書店 **Jump01**）、『アングロサクソンは人間を不幸にする』（ビル・トッテン著、PHP **Jump02**）、『経済成長がなければ私たちは豊かにならないのだろうか』（ダグラス・ラミス著、平凡社 **Jump03**）

それぞれ、別の機会に異なる書店で買ったものだし、中身も違っている。『東京～』は、戦後の闇市から米軍の駐留、オリンピック、高度経済成長へと至る現代史を、東京のアンダーグラウンド社会を中心に描いたノンフィクション。現在にも直結する日本の闇社会を衝撃的にドキュメントした話題作なので、読まれた方も多だろう。『アングロ～』は、資本主義発生の背景やアメリカ建国の歴史を参照しながら、市場万能経済を批判する評論。『経済成長～』のテーマはタイトルどおりだが、経済成長だけではなく、安全保障や環境問題にも深く言及した「語りおろし」である。

3冊とも一気に読んでしまったほど面白く、充実した内容なのだが、あるとき私は、著者たちに明らかな共通点があるのに気付いた。全員が、日本に何十年も在住しているアメリカ人なのだ。ホワイトニングは、1942年ニュージャージー生まれで、60年代後半に来日。上智大を卒業後、出版社勤務を経て1977年には比較文化論の視点で日本の野球を描いた『菊とバット』を発表した作家。トッテンは、1941年カリフォルニア生まれ。1969年に来日、72年にはビジネスソフト販売会社のアシストを設立し、現在では社員600人以上を抱える経営者。日本型の家族的経営を重視、実践し、マスコミでは日本擁護派の論客として知られている。ラミスは、1936年カリフォルニア生まれ。1960年に海兵隊員として沖縄に駐留。1961年に除隊後以来、日本に在住、元津田塾大教授。『ラディカル・デモクラシー』などの著書がある政治学者だ。

日本在住の外国人文筆家は少なくないし、私個人の興味が彼らの書くものに近い、と言ってしまうとそれだけの話だが、今回の3冊には偶然以上のものを感じるのだ。1つは、時代的な要素だろう。彼らは、3人も戦前～戦中のアメリカ生まれで、60年代に来日している。ということは、生活レベルに大きな格差があった戦後の



日米両国、日本の急成長、バブル崩壊、日本の低迷といった流れを熟知しているはずだ。つまり、右肩上がりでやって来て行き詰まっている日本人とは異なり、日米の格差を相対的に見て来た分、1サイクル分、経験値が高いわけだ。私、あるいはこの本の読者たちが、そうした書き手を必要とする時期なのだと思う。

もう1つは、市場（読み手）側の意識が成熟してきたことだ。かつて「ガイジン」が書く日本論でウケるものは、日本礼賛か批判かのどちらかだった。この3冊は、どちらでもない。『東京～』は日本人ライターにはタブーだった、犯罪組織と政治の結び付きを描いた点が話題になっているし、『アングロ～』『経済成長～』は、日本だけではなく世界情勢全般について、アメリカ的な考え方を批判する書だ。私自身、著者全員が日本在住米人と気付くまで、少し時間がかかったほどで、日本語としてきちんと書かれていれば、それが「ガイジン」が書いたものかどうかは、あまり意識されなくなっているのではないだろうか。

あなたがネットのヘビーユーザーであれば、世界全体がアメリカ化する危うさと、多文化共存の難しさを同時に実感しているだろう。たとえば日本語ドメイン名は便利だが、海外からのアクセスが難しくなるといったジレンマがある。この3冊に、インターネットの話はどこにも出てこないが、「インターネットのある世界」を考えるには格好の書だと思う。

Jump01 www.kadokawa.co.jp/book/contents/200006/2097.html

Jump02 www.php.co.jp/cgi-web/shop/shop.cgi?select=4-569-61272-5

Jump03 www.heibonsha.co.jp/catalogue/



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp